

防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書

学校名：岩手県立久慈高等学校

I 取組の概要

3月24日

学校防災委員会にて事業計画案の検討

4月11日

生徒会の委員会活動に「防災・復興委員会」を立ち上げ委員選出

4月12日

事業計画案検討・策定（実施内容の精査）

4月19日

教職員研修、事業内容の確認、役割分担確認

4月20日

防災・復興委員会集会、活動内容の決定・生徒の役割分担確認 「防災班」「復興・ボランティア活動班」「地域貢献活動班」

5月11日

生徒総会にて、防災・復興委員会委員長が全校生徒に対して活動の計画を発表し、協力を呼びかけた。

5月17日

ボランティア活動の事前学習（1年生全員）

学外活動のあらましやその意義、本校でこれまで行ってきた活動、現在継続中の活動、今年度計画している活動について、担当教員から講義を行い、その後実際に活動している3名の生徒たちが、自分の行ってきた活動を紹介した。その後、1年生数名が、その活動に共感し、今後の活動への参加を申し出た。

5月18日

火災に関する避難訓練（時間通知なし）

従来は火災発生時刻や場所を事前に生徒に伝え、各HR担任が避難誘導を行っていたが、今回は火災発生場所も、時間も告げず、休み時間に抜き打ちの形で実施した。火災発生場所の関係で、避難経路も制限し、放送及び避難誘導の職員の指示に基づいての避難訓練だった。生徒たちは、冷静に落ち着いて放送及び職員の指示に従い、校内では慌てず走らず整然と、外に出るからは駆け足で避難場所まで移動した。周囲の状況をして行動することができた。

5月25日

防災・復興委員会にて、「防災アンケート」の内容を検討

生徒・保護者双方に対して現状認識と今後の備えの必要性の再認識を重点とすることとした。

6月10日

防災復興委員会で、「防災アンケート」内容の最終検討

6月14日

防災アンケートの実施（生徒・保護者）生徒15日・保護者30日回収期限

7月28日

防災復興委員会打合せ 大阪大学と連携しての野田村での活動について

8月11、20、21日

野田村における活動 大阪大学未来共生プログラムに参加（8月11、20、21日）防災・復興委員会の1・2年生の生徒数名が参加。11日は、野田村のサテライトで、これまでの支援についてのまとめを大阪大学の渥美先生から伺った。20日は野田村の「ねま〜る」で、本校「防災復興委員会」の活動について「のだむラジオ」の番組として収録。21日は被災者からの体験を聞き、その内容をラジオ番組にまとめる活動を実施。

8月中旬

防災アンケート集計・まとめ（別紙）

9月3日

3年生被災地訪問（バス2台利用）

3年生およそ70名が宮古市田老の「学ぶ防災田老」における研修を実施

9月25日

3年生の有志たちが、台風10号により被災した久慈市の久慈港付近で災害ボランティア活動を実施。自分たちで久慈市社会福祉協議会に連絡しての活動だった。

10月5日

生徒総会の中で、防災復興委員会が、災害ボランティアについて報告。生徒からも更なる活動の提案がなされた。

10月8、9日

希望郷いわて国体 おもてなしボランティア活動（1・2年生計11名）。久慈への来訪者に、2つのグループがもてなしの活動を実施。久慈市・岩手大学と連携しながら、5回ほど計画立案を行った。終了後には自分たちの活動を振り返り、課題について考える機会を設けた。

10月12日

地震に関する避難訓練。実施時間を告げずに休憩時間に地震発生を想定しての避難訓練。大き

な地震の際にどのようにして自分の身を守るか考え、行動させる。終了後は消防署の方から、今年の台風10号に関連して、スライドなどを用いて、自分の身を守る行動・避難について講義を受けた。

10月15日

校地内クリーン作戦（ボランティア）

土曜日の昼の時間に、8月30日の台風10号により、校地内に残っているゴミを1年生の生徒たちが撤去する活動を実施。清掃後は見違えるほどきれいになった。

11月29日

家庭科実習（3年フードデザイン）災害時調理訓練

3Aフードデザインの授業で、災害時に使える調理実習を行いました。これは、復興スクール事業の一環です。ビニール袋に米と水、パンケーキの生地、野菜スープの材料をそれぞれ入れ、空気を抜いてお湯でゆでただきました。生徒全員が初めての体験でした。

3月17日

家庭科実習（1年家庭基礎）災害時調理訓練

3年生の時のメニューと同じ内容でしたが、ふりかけをまぶしたおにぎりにしたり、昆布茶の代わりにコンソメ顆粒を用いるなど、食べやすいように工夫しました。手際よく、おいしく調理できました。

2月

委員会生徒へのアンケート（実施しての反省・感想の主なものを抜粋）

- ・1、2年生全員が、大阪大学と連携して行った活動に参加し、ラジオ番組作りに関わることができ、その中で災害に備える大切さを学んだ。
- ・3年生委員も台風10号の際は率先してボランティア活動を行った。
- ・委員だけの活動ではなくて、全校生徒に関わる活動にしていきたい。

II 取組の成果と課題

1. 取組みにおける成果

- ・復興スクールの指定を受けたことで、はじめに行ったのは、教員が検討を重ね、校内の復興防災委員会という生徒委員会組織を立ち上げたことである。これにより、職員の中にも防災・復興への意識が高まった。また、委員会の組織を3つの班に分け、その中で自分たちの活動を考えさせることで、より具体的な活動が検討・実践できた。
- ・震災後5年が過ぎ、生徒・保護者の防災への意識がどのように変化したかを、アンケート調査で確かめることができた。
- ・生徒の主体的な活動を多く取り入れることができた。

災害時には積極的にボランティア活動に参加するなど、意識を高く持って取り組んだ。生徒会全体としても、ボランティア活動の活性化を提案する意見が出されるなど、全体としてボランティア活動への参加意識が高まったと考えられる。

- ・地域貢献について、希望郷いわて国体のおもてなしボランティアは、その取り組み内容の全てを生徒たち自身で考え、準備し、実行できた。また、岩手大学・久慈市との連携もスムーズに進み、仲間とつながり、地域とつながる活動ができた。

- ・一連のボランティア活動を通じて、生徒たちの中に、自分たちでボランティア団体を作る意識が生まれ、実際に久慈市と連携しての活動を行うなど、主体的活動に発展したことは大きな成果だった。

- ・避難訓練は、従来7校時始まってまもなくの時間に、HR担任が教室にいる状態の中でしか行ったことがなかったが、生徒への予告無しで、6校時終了後の休み時間に災害発生の想定で実施した。生徒たちは、教室・廊下・トイレ等ばらばらの状態であったにも関わらず、各自放送を聴いてスムーズに避難場所に移動できた。情報を適切に収集して、適切な行動ができる生徒の育成につながっていると思われる。

2. 今後の課題

- ・避難訓練の内容を更に工夫し、より実践的な訓練にする。保護者との安否確認訓練を取り入れたい。
- ・AED講習を教職員に行う予定だったが、実施予定日と台風10号の被災とが重なってしまい、実施できなかった。
- ・防災アンケートでは、質問の仕方を更に検討すべき点が見つかった。震災当時と現在とで防災意識がどう変わったのかを考えていただく中で、防災意識を高めたいと考えての実施だったが、震災前と震災後にどう気持ちが変わったかについて答えていた回答が多かった。
- ・災害時の炊き出し訓練は、今回は調理室という便利な場所で行ったが、実際には外で行う機会を作ればよかった。
- ・今年度の活動を通して、主体的にボランティア活動に参加した生徒たちが多くなったが、これを単年度で終わらせてしまうのではなく、学校全体としても継続して行くための取り組みを今後検討する必要がある。